

45. 外来化学療法室において 抗TNF α 抗体療法を受けて いる患者の意識調査

獨協医科大学¹⁾ 看護部 (外来化学療法室)

²⁾ 内科学 (呼吸器・アレルギー)

³⁾ 腫瘍センター

上野恵美¹⁾, 海老原直美¹⁾, 岡本美紀¹⁾,
針谷美保子¹⁾, 内堀由美子¹⁾, 前澤玲華²⁾,
倉沢和宏²⁾, 曾田紗世³⁾, 石濱洋美³⁾

【目的】 インフリキシマブ投与患者の不满・苦痛を調査し、外来化学療法室におけるより良い管理方法を検討する。

【方法】 アレルギー反応を考慮し120分以上かけて投与開始、その後60分に短縮された症例。アンケート形式。回収時に罹患期間や投与回数などのデータを電子カルテから収集。

【結果】 男性28名、女性28名。薬剤効果に関しては、大変満足・まあ満足と回答した患者は関節リウマチ84%、クローン病・潰瘍性大腸炎では89%。治療に関し優先する順位は、1効果、2副作用が出ない事、3費用、4通院回数、5治療時間、6治療環境であり、治療環境に関しては、回数や時間に比べ分散傾向が見られた。薬剤の投与方法や投与場所に関しては現状で満足している人が多い。

【考察・結論】 患者は当然治療効果が高く、副作用が少ない治療を望んでいる。しかし、治療効果に不満を持っている人や、副作用で苦しんでいる人は実際には少数であり、むしろこの効果がいつまで続くかを心配している。優先する事と実際の苦痛が一致して多かったのは費用に関してであり、特定疾患による公費負担制度が有るクローン、ベーチェット、潰瘍性大腸炎と関節リウマチでは、非リウマチ疾患の方が費用を重視している傾向が認められた。投与回数を20回以上・以下で分けて検討したが、傾向の差はない。この要因として性別と年齢分布の差が考えられる。非リウマチ疾患の患者は比較的若い男性、就労者が多い事、更に収入等により公費負担割合が異なるため、影響を受ける度合いに差がある事などが考えられた。投与時間の短縮は好評で、インフュージョンリアクションの出現は1例だけであった。患者の感じている不安は、効果の持続と費用に関してが多く、特に治療期間が長い関節リウマチ患者は将来の不安が大きいと言える。また、特定疾患であっても経済的に困っている患者が多い事にも留意しながら、不安・不満の細かい抽出と共有が重要である。